



シェイクハンド

第49号
H29.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



新年のご挨拶



一般社団法人
静岡県訪問看護ステーション協議会
会長 望月 律子

希望に満ちた新年をお迎えのことと思います。医療・介護政策激動の時代に、

生活の中の医療・看護を实践してこられた皆様の力が大きく認知されてきました。医療機関との交流研修・多職種連携に注力した成果は、さらなる飛躍の年に繋がると思います。協議会の仕事も拡大しました。地域の期待に応える訪問看護の質と量の確保をめざし、皆様と共に発展する協議会でありたいと思います。本年も昨年以上によりしくお願いいたします。



副会長 岡 慎一郎

新年あけましておめでとうございます。昨年中は皆様方に大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

医療・介護連携に関係する県内外の取り組みを見ると、高齢化対策に本腰を入れ始めている地域が増えてきたと感じます。高齢者世帯の増加、看護師や介護職の不足、医療を必要とする要介護者の増加などの問題は、多くの地域で共通した課題となっています。

超高齢化社会に備えるための地域包括ケアシステムは、医療・介護・行政・住民が協力して、一歩一歩前進する必要があります。この中でも訪問看護の重要性は増大し、その役割に期待しています。皆さんとともに力を合わせて進んでいきたいと願っています。



副会長 上野 桂子

明けましておめでとうございます。

「地域包括ケアシステム」の構築が推進される中、医療と生活の両方を支えることのできる訪問看護はその中でも重要な役割を果たすと期待されています。地域で生活している療養者を支えるために、訪問看護の従事者を増やすことと訪問看護の質の確保・向上が、喫緊の課題です。皆様と力を合わせて尽力いたしますので宜しく願い致します。

ことのできる訪問看護はその中でも重要な役割を果たすと期待されています。地域で生活している療養者を支えるために、訪問看護の従事者を増やすことと訪問看護の質の確保・向上が、喫緊の課題です。皆様と力を合わせて尽力いたしますので宜しく願い致します。



事務長 鈴木 恵子

明けましておめでとうございます。

協議会は法人化して4年が経ち、地域の中で少しずつですが認知され、訪問看護事業所や訪問看護師等も確実に増えています。今年も様々な研修を開催し、事業所数や訪問看護師数の増加と共に、訪問看護の質の向上を図っていきます。積極的に参加して、皆さんから信頼される訪問看護を目指しましょう。

協議会は法人化して4年が経ち、地域の中で少しずつですが認知され、訪問看護事業所や訪問看護師等も確実に増えています。今年も様々な研修を開催し、事業所数や訪問看護師数の増加と共に、訪問看護の質の向上を図っていきます。積極的に参加して、皆さんから信頼される訪問看護を目指しましょう。



地域情報交換会 報告

地域情報交換会は、「在宅ターミナルケアを実施または実施しようとする訪問看護ステーションに対して、在宅緩和ケアやがん性疼痛看護の知識と技術を内容とする研修及び他の訪問看護事業所の看護師と相互交流を図り、お互いの知識や技術を共有し、資質の向上を図る」目的で行われています。

開催期間：平成28年8月1日(月)～平成29年1月31日(火)

開催地区・回数：県内8会場・各3回開催

「地域情報交換会に参加して」

訪問看護ステーションほたるしずおか

山本 由美子

参加ステーション：まはえの訪問看護ステーション
曲金訪問看護ステーション
訪問看護ステーション

ほたるしずおか

参加人数：平成28年8月31日(水) 13名
10月18日(火) 17名
11月14日(月) 15名

中部地区で私が参加した地域情報交換会は平成28年8月31日、10月18日、11月14日の3回に渡り開催されました。講師として訪問看護ステーション掛川所長で訪問看護認定看護師の赤堀奈緒子氏、共立蒲原総合病院訪問看護ステーション・緩和ケア認定看護師の佐野千恵氏をお招きし、近隣の訪問看護ステーション3事業所が参加して在宅ターミナルケアについて話し合いました。

話し合いではそれぞれの事業所が1～2例のがん末期の利用者様の事例をあげました。

がんの部位や症状・経過・治療方針・家族構成や介護力・経済状況・利用サービス・ケア内容を発表しました。他の事業所ではどんな関わり方をしたか、他に出来ることはなかったかを話し合いました。自分達は常に利用者に寄り添い、その時に出来る精一杯の看護をしてきました。今回、他の事業所との話し合いでいろいろな視点からの考えや意見、思いを気づかせて頂き、ケアや援助方法の再確認ができました。各事業所が使用している看取りのパンフレットの紹介も行いました。事業所内の業務に追われる毎日で、他の事業所との関わりがありませんでしたが、情報交換会に参加させて頂き、お互いの知識や技術を共有し質の向上を図る機会をいただきました。

訪問看護認定看護師の赤堀奈緒子氏からは、それぞれの事例において場面場面で利用者様やご家族の思いを聞いてみると良いとの助言を頂きました。それによってその方たちが何を望み、どう過ごしたいかが見えてくるのではと伺いました。聞きにくいこともあるかもしれませんが、思いを引き出すことは

とても重要なことだと思いました。

緩和ケア認定看護師の佐野千恵氏からは、終末期の軌道・主要な身体症状の出現からの生存期間・がん性疼痛に使用する薬剤・呼吸困難に対する薬剤療法についてを学びました。在宅緩和ケアやがん性疼痛看護の再認識をすることができました。

在院日数の短縮や地域包括システムの構築に向けて、在宅ターミナルケアを必要とする利用者が増えてくる中、訪問看護師の役割は大きくなると思われます。その為には、訪問看護ステーションが互いに切磋琢磨し、知識や技術の向上に努めていく必要があります。

今回の情報交換会は、その一歩だと考えます。利用者様やご家族が安心、安楽な在宅生活を過ごせるように日々努力をしていきたいと思えます。

このような研修にご尽力いただいた事務局の方々に感謝しています。次回もまた参加したいと思えます。





平成28年度ケアマネジャー在宅医療研修報告

事務局 朝比奈 結 華

昨年度より始まった「ケアマネジャー在宅医療研修」は、今年度も引き続き東部・中部・西部3会場で開催されました。今年度は主任ケアマネジャー更新要件の研修として、3会場合わせて89名のケアマネジャーの参加がありました。

在宅医療における訪問看護の実際をとおして、訪問看護の効果的な活用について学び、在宅療養者へのサービスの充実や訪問看護との連携強化を図ることを目的に3日間（各半日）のプログラムとなっています。

1日目は、在宅医療に熱心な開業医の医師と訪問看護ステーションの管理者より、それぞれ「在宅医療の実際」と「訪問看護の理解について」をテーマとした講義でした。

2日目は各地域の訪問看護ステーションで、訪問看護について理解を深めて頂くために同行訪問実習を行いました。

3日目は、講義と実習の振り返りとしてグループワークを行いました。『訪問看護導入のタイミング』というテーマで、「これまでの経験の振り返り」「これまでの訪問看護導入のきっかけ」「今回の研修での学び」をグループ内で話し合い、今後のケアプラン作成時の訪問看護導入について意見交換をしました。各グループに1名ずつ支部の役員がコーディネーターとして参加しました。

講義では、各地域の在宅医療に力を入れている先生方の本音や在宅医療・地域包括ケアシステムについてお話が伺えました。往診と訪問診療の違いや連携の大切さ、主治医との連携の取り方の工夫を学んで頂いています。具体的には医師の特徴を知り、コミュニケーションをとることや、「連携を取ると得をする」と思わせるコツなどわかりやすい講義で、皆さんの理解が深まったようです。

訪問看護の講義では、予防の段階から訪問看護を導入できることを知らなかったケアマネジャーも多く、月1回の導入で状態を維持し重度化を防ぎ、安定した療養生活を送るために役立つことを理解し、今までわかりにくかった介護保険での訪問看護、医療保険での訪問看護の違いを学んでいます。心配なことがあれば相談を、という言葉がとても心強かったという声が多く聞かれました。地域包括ケアシステム推進を意識し、訪問看護の効果を伝えていくことが大切です。相談を受ける訪問看護ステーション側の意識も統一していかなければならないと思いました。

訪問看護については、講義後の実習を通して理解が更に深まりました。ケアマネジャーの中には、「リハビリの視点や家族支援まで行っていることがわかった」、「主治医の特徴をとらえた迅速な報告や家族が安心する落ち着いた対応などの実際が学べた」、「介護保険施行当時と比べ訪問看護師が親しみやすくなっている印象を受けた」等々の意見を頂き、実習はとても好評でした。

今回の研修でも昨年同様、講義と実習を通して学んだことをグループワークで共有でき、学習効果が

上がったのではないかと思います。聴講後、訪問看護導入を意識し、早速訪問看護ステーションに相談、同行訪問し導入準備ができたという意見も聞かれました。反面、「何かあったら病院に行くからいい」と仰る利用者さんへ訪問看護をすすめていく困難さも聞かれています。グループワークによって、他地域の医療連携状況を知り、自分の地域で取り組むべきことを考える良い機会となったようです。

地域包括ケアシステム構築の要となるケアマネジャーとの連携はとても重要で、利用者がよりよく過ごせるように協働している立場であることを、私自身が再認識しました。地域包括ケアシステムの中で支援するケアチームの一員として、お互いの専門性を理解し信頼関係を築けるようにすることが必要です。訪問看護師は相談しやすい雰囲気作り、研修機会だけでなく地域包括ケア会議・サービス担当者会議他、積極的に顔の見える関係作りを進めることが、利用者のケアの質を高めるのだと改めて実感しました。訪問看護導入により利用者が安心して暮らせるという効果を理解して頂き、連携が深まることを期待しています。また、予後予測ができることをわかりやすい言葉で表現し、ケアマネジャーに訪問看護の専門性を理解して頂くことが大切だと思います。継続して効果的な活用と連携強化が広がるようにしたいと思います。

今回の研修の周知に当たっては、各支部の役員の皆様、静岡県介護支援専門員協会会長・副会長にも御協力頂いたおかげで、昨年度より25名参加者が増えました。定員一杯となり、お断りしてしまった方もあります。来年度、更に多くのケアマネジャーに参加して頂けるように、引き続き声をかけて頂きたいと思ひます。

研修に参加して

三島市医師会訪問看護ステーション

杉山 恵美子

今年もケアマネジャーを対象とした在宅医療の研修が開催され、『実習の成果のまとめ』のグループワークに参加しました。

ケアマネジャーからは、「訪問看護が身近に感じられるようになった。」との声が聞かれ、研修を通して“予防”の段階から訪問看護を導入する必要性が理解されているように感じられました。顔の見える関係作りも出来、訪問看護についての理解を得る為には今後も必要な研修であると実感しました。

しばらくして、同じグループだったケアマネジャーから利用者様についての相談があり訪問看護の利用につながりました。その後も良い関係が続いています。

いつでもケアマネジャーと相談し合える関係作りを心がけて、地域のネットワーク構築に努めていきたいと思ひます。



ステーション紹介

東部 訪問看護ステーション・エコー

加藤 叡子

訪問看護ステーション・エコーは伊豆半島の東、温泉と良質な水、豊かな自然に恵まれた伊東市に誕生して5年になります。同じ病院で臨床の経験を積んだ先輩・後輩の看護師仲間が在宅療養の皆様に寄り添いつつ心に響くような看護を提供したいとの思いで結集・協力し立ち上げたステーションです。

看護職員が5名、事務職員1名の女性ばかりの職場です。朝は多忙ですが必ずカンファレンスの時間を設け、利用者様の情報を共有して訪問に臨みます。又ニュースで流れる高齢者福祉やこのところ日本列島全体に拡大しつつある災害の実態を取り上げて、自分たちの地域の防災や利用者様の安全対策についても話題に乗せています。パートの看護職員が1名含まれている事や、24時間対応体制である事、スタッフの経験の差も考慮して、すべての利用者様に質の高い看護を提供するためチームナーシングで取り組んでいます。この体制は看護師それぞれの個性に触れる事で利用者様の日々の意欲を喚起できると感じています。

訪問時間を配慮・調整する事でスタッフが一緒に昼食を摂る習慣も大切

にしています。どうしても訪問の話題が多くなりますが、お菜を持ち寄ったり料理自慢が飛び出したり女性ならではのひと時となります。

集大成と位置付けているのはやはり在宅での看取りです。在宅死が2割に満たない日本の現状の中で、訪問看護を導入している方の在宅看取りは6割とまずまずの数字を示しています。(当ステーションの統計)しかし利用者様に安心して任せて頂けるような在宅ケアを確立できればこの数字はもっと伸びるだろうとの予測の元、日々精進する決意です。



中部 訪問看護ステーション「池ちゃん家」

池谷 千尋

いつも大変お世話になっております。訪問看護ステーション「池ちゃん家」は平成25年7月に開設致しました。併設でデイサービス、障がい者生活介護等があり、何年も看ていたおばあさんを最後まで私達の手で看ていきたいという思いからスタートしました。

現在常勤2名、常勤兼務3名、非常勤1名のス

タッフで、大きな事は出来ないけれど、人を大事にし、人に助けられてきた以上の知恵と優しさと、強さと勇気をもって訪問看護を行っていこうと日々研修や勉強会、講義等に参加し、自己研鑽に励んでいます。とは言え、意気込みとは真逆な事も多い中、その人の為に何が出来るのか、という基本をしっかりと植え付け、泥臭いことも沢山やりながら、信頼さ



れる訪問看護師でありたいと思います。

今後も医療が進み、治療法も変わり、器具に惑わされる時が来るかもしれませんが、病院看護師や訪問看護ステーションと連携をとり皆さんの近くにある駐在型訪問看護ステーション「池ちゃん家」として、本人・ご家族を支えられる一端を担っていきたくと思っていますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。



西部 訪問看護ステーション頭陀寺

野村 順子

浜松市南区頭陀寺町にある「訪問看護ステーション頭陀寺（ずだじ）」です。

頭陀寺と、素直に読める方は非常に少なく、電話では大抵、何度も聞き返されてしまいます。

その頭陀寺ですが、私達の事務所のすぐ近くにあるお寺で、その歴史は古く、今年の大河ドラマの主人公である井伊直虎が養育したといわれる井伊直政ゆかりの地であるということから、静かな脚光を浴びているお寺でもあります。

訪問看護ステーション頭陀寺は、平成14年から開設しており、浜松市内のステーションの中では、どちらかというと古株の方に属しているステーションです。

スタッフは、現在看護師6名、理学療法士17名、作業療法士12名。特にリハビリスタッフについては、若手から経験豊富なスタッフまで、とても充実しております。

利用されている方の中には、リハビリスタッフによる訪問のみを受けられている方、看護師による訪問のみを受けられている方、リハビリスタッフと看護師の両方の訪問を受けられている方と三つのパターンがあり、利用者様の体調に合わ

せて、リハビリと看護の利用割合の変更がスムーズにできるという点が、私達ステーションの大きな特徴です。セラピストとして、看護師として、それぞれの視点から利用者様にアプローチをし、安心して在宅での生活ができる様お手伝いさせていただいております。

訪問看護という仕事は、様々な出会いや別れ、日々の業務を通じて学ぶことや発見がたくさんあり、私達は常に刺激を受け、利用者様に成長させていただいています。

これからも、利用者様や御家族様の立場に立って考え、在宅で安心して療養できる環境づくりに努めて行きたいと考えています。





訪問看護師就業セミナーに参加して

訪問看護の実際を知っていただくため毎年開催している就業セミナー、その参加者の中から後に訪問看護師として就業された方にその体験を伺いました。

就業セミナーに参加して①

訪問看護ステーションいわた

小永井 理恵子

今から6年前、家事育児のため長い間看護の現場から離れていた私は、再就業について考えていました。その頃訪問看護に興味がありましたが、ブランクもあり看護の仕事に自信もなく、興味はあるものの、なかなか一歩が踏み出せずにいました。そんな時、訪問看護師就業セミナーの募集を知り、参加することにしました。

就業セミナーでは、訪問看護の具体的な仕事や制度についてなど講義を聴いたり、私と同じように、ブランクがありながらも再就業された先輩看護師の体験談を聞く事ができ、迷う自分の背中を押してもらえたことを覚えています。また訪問実習もあり、実際にお宅に看護師と訪問させていただき、療養者とその家族の生活ぶりや在宅での医療ケアの様子を見せていただきました。住み慣れた自宅でその人らしく過ごす療養者の落ち着いた表情、看護師のことを信頼し安心して相談する家族の表情、そして生き生きと丁寧にケアや相談に応じる看護師の姿に訪問看護の魅力を感じ、再就業することに決めました。

就業当初は週3日の午前中のみの勤務から始め、少しずつ仕事に慣れることとし、徐々に仕事の日数・勤務時間を増やし、現在6年目となり常勤勤務になりました。日頃の看護では、療養者が安心して自宅で過ごせるように、心配な事や不安に思っている事について相談しやすい雰囲気づくりに心がけていることと、訪問時の病状に応じたケアを提供すると同時に、今後予測されることについての対応方法を、わかりやすく具体的に指導する事に気をつけて看護しています。

訪問看護の対象者は年齢幅も広く、疾病や障害もさまざま、自分の医学的な知識や経験不足から、アセスメントの不十分さを感じる事が多々あります。これからは、より早く異常の早期発見・対応ができるように苦手分野の医学的知識をより深め、的確なフィジカルアセスメントができるようになる事と、介護者家族への心のケアに努めていきたいと思えます。

就業セミナーに参加して②

訪問看護ステーションいわた

寺田 沙知子

私は訪問看護ステーションいわたで働き始めて5か月になります。訪問看護師として働くきっかけになったのが、静岡県訪問看護ステーション協議会がおこなっている就業セミナーです。訪問看護の楽しさ・おもしろさを知ってもらいたいという趣旨のセミナーで、去年磐田市の広報紙を通じて知り参加しました。その時の私は、まさかこうして訪問看護師として働くと思っていませんでした。看護学校卒業後、急性期の総合病院に勤めていた時、在宅での生活に不安を抱えながら退院していく患者様も多く、退院した先の生活をみすえた継続看護の難しさともどかしさを感じていました。その頃より在宅支援や訪問看護には興味はあったので、セミナー募集を知ったときにはすぐ申し込みをしました。

セミナーは3日間の日程で開催され、1日目は訪問看護入門として訪問看護師の役割や関連する制度・現状を訪問看護ステーションの所長さんに講義して頂きました。2日目は実際に現職場である訪問看護ステーションで半日同行訪問させて頂き、看護の実際を目にしました。在宅療養の場では病院とは使用する物品や方法が違い驚きの連続でした。家が一番という療養者様の幸せそうな顔が印象的でした。また、療養者様同様、同行させて頂いた看護師のいきいきと楽しそうにケアする姿は私の目に眩しく映りました。訪問から帰り、活発に意見を出し合えるステーションの環境も羨ましく思いました。3日目は実習で感じた事など自由に語り合う懇談会で、自分の持つ看護観を見つめ直す良い機会となりました。

訪問看護師はベテランで、経験・知識が豊富でないと務まらない、というイメージを持っており、訪問看護や在宅で働くことに興味はあるけれど、実際に働くのはまだまだ先の話だろうと思っていました。訪問看護の分野も新卒看護師を育成する流れができてきていること、ワークライフバランスが実現できるよう多様な働き方もできることなど知り、今まで頭の中で就業にストップをかけていたことが一つ一つ解決され不安が消失していきました。就業セミナーに参加し、私の看護人生は大きく変わりました。

訪問看護師となり、慌ただしく毎日が過ぎていきます。日々療養者様と家族に寄り添いながら自分も成長できる訪問看護の魅力を、今度は私がステーションに来る実習生や研修生に伝えていきたいと思っています。



平成28年度東海北陸ブロック交流会に参加して

訪問看護ステーション一休 大村 純子

静岡・愛知・三重・岐阜・富山・福井・石川の7県が交流する今年の開催県は三重県でした。伊勢湾岸にある鳥羽シーサイドホテルにて10月22日、23日で行なわれました。静岡県からは11名の参加でした。

22日13時から3時間、前全国訪問看護事業協会事務局長の宮崎和加子氏の講演会がありました。『東京で第一号の訪看ステーションを立ち上げた頃からの40年の訪問看護の歴史』『地域包括ケアシステムについて』『東京から山梨県北杜市に移住したのち地域のニーズに合わせてグループホームを立ち上げた話』『訪看は、ご本人が主体的に生きることの生活支援のプロでありたい』について熱く語っていただきました。

その後18時からの交流会は約60名参加されました。美味しいお食事をいただきながら各県の活動報告を聞きました。静岡県は協議会の鈴木事務長より平成28年度の事業概要を報告して頂きました。

21時に閉会となり、部屋割は他県の方々と混合の5～6名ごとに分かれしました。各部屋での雑談では地域性の違いに驚きや笑いが起こり盛り上がりました。



翌日は三重県の役員方々のご配慮で、希望者は伊勢神宮内宮の正式参拝ができるツアーを企画して頂きました。私はこれに参加しました。正式参拝とは神職のお祓いを受けて一般よりも正殿に近い位置(御垣内)からお参りするものです。服装が礼装に値するものかどうか非常に厳しいチェックがありました。その後、神楽殿では大々神楽を舞う奉納祈祷があり歌に伴奏する雅楽の調べは単調ながら幽玄な余韻でした。たくさんの巨木に囲まれマイナスイオンをたっぷり吸いこんで身が引き締まり、心が洗われリフレッシュした二日間となりました。





事務局より

あけましておめでとうございます。28年度の研修も残り少なくなりました。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

研修会のお知らせ

◆認知症訪問看護研修 ※中部・西部は終了しました。

東部	日時	会場	テーマ	講師
1日目	1月21日(土) 10:00~16:00	沼津労政会館 第1会議室	認知症の現状・理解 認知症ケアの基本と薬物療法 の支援の理解	千葉大学大学院看護学研究科・ 看護学部 教授 諏訪さゆり氏 他
2日目	1月22日(日) 10:00~16:00	プラサヴェルデ 401会議室	施設・在宅サービスの種類 と内容の理解 認知症ケアの実際	東静居宅介護支援事業所 主任ケアマネジャー 認知症ケア専門士 和泉美知子氏 他

◆在宅ターミナルケア研修 ※東部・中部は終了しました。

西部	日時	会場	テーマ	講師
3日目	1月28日(土) 9:30~16:30	福祉交流センター 21会議室	死生学について がん患者とその家族への心理 面のケア	静岡大学大学院農学研究科教授 竹之内裕文氏 他

◆ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム ※受講料：会員1万円 非会員1万5千円
質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供するための教育プログラムです。

	日時	会場	テーマ	講師
1日目	2月25日(土) 9:00~17:05	常葉サテライトビル 6階	エンド・オブ・ライフ・ケア における看護 痛みのマネジメント 他	静岡県立静岡がんセンター 久山 幸恵氏 藤枝市立総合病院 塚本 浩樹氏 焼津市立総合病院 鈴木 裕子氏 他
2日目	2月26日(日) 9:00~16:50	常葉サテライトビル 6階	高齢者のエンド・オブ・ラ イフ・ケア 喪失・悲嘆・死別 他	聖隷浜松病院 梅田 靖子氏 聖隷三方原病院 福田かおり氏 静岡県立総合病院 野崎 順子氏 他

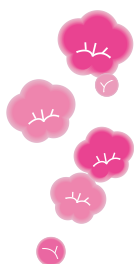
◆西部地区シンポジウム ※参加費無料の市民フォーラムです。

日時	会場	基調講演	講師
3月4日(土) 13:15~16:30	掛川市 美感ホール	「家で死ぬこと、考えたこと ありますか?」	株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 代表取締役・統括所長 秋山正子氏

編集後記

明けましておめでとうございます。
各地域では、訪問看護ステーションは
いろんな会議にひっぱりだこで
毎回忙しいですね。

今年は「とり」のように美しく
「訪問看護ってステキ♡」とアピ
ールしていきましょう。



シェイクハンドNo.49

2017年1月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0043
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13
常葉サテライトビル3階
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 望月 律子
編集者 杉山恵美子(三島市医師会訪問看護ステーション) 東部
大村 純子(訪問看護ステーション一休) 中部
長瀬 由美(訪問看護ステーションいわた) 西部